



博物館にはOregon市の歴史物が飾られていた。その中には大阪狭山市との姉妹都市提携関係の写真などが多く飾られていた。翻って、当市のオンタリオ市との40年の歩みに関する資料の少なさに気がついた。当市から送られた人形や焼き物の展示や、日本庭園など、文化センターのメインになっているのは、日系人の有力者がこの施設の建設に寄付をされたからだろうか。大阪狭山市との姉妹都市関係の継続も、日系人のボランティア精神に依存している可能性も多いようだ。

⑧ 40周年記念式典(4RCCで)

記念式場が準備中の最中、一人楽団のおじさんが、リハーサルをし始めた。車輪付きのピアノにトランペット、太鼓までセットしていて、一人で数種類の楽器を演奏する。この人も玄人裸足のボランティアのようだ。地元のArgus Observerの女性記者が取材に来ていて、インタビューを受けた。翌日の同紙にはKazuhiro Oharaのコメントが掲載された。6時半から40周年記念宴会が始まった。日



本からの訪問者は、ホストファミリーと一緒にテーブルに着席する。Matt氏がホストだったので私は一番前の席に座った。言わば一等席。右隣りには元市長のDominick夫妻が座った。このDominick氏は大阪狭山市にも訪問したことがあるそうで、今でもこの友好都市提携の重要な協力者である。式が始まり、形通りの挨拶が続いた。先ず、現市長のCammack氏が挨拶をし、大阪狭山市の吉田市長も挨拶。通訳は在米35年のAkiko Ruckerさんで日ごろ慣れない通訳を一生懸命こなしていた。不慣れなのは承知の上で引き受けたもので、ボランティア精神から見れば多少のつまずきはお愛想。宴会での主役はやはり、古川安男氏であった。氏は過去に18回このオンタリオ市を訪問し、友好関係継続に尽力された。今回、40周年記念式典に際して、商工会議所から「親善大使」(Goodwill Ambassador)に任命され、記念の「チョッキ」を贈呈された。氏の活躍に対して姉妹都市の相手であるオンタリオ市での評価が高いのに、大阪狭山市での評価が低すぎるのはおかしな話である。



⑨ Cammack市長等との意見交換会

Matt氏に渡米以前からオンタリオ市の市議会議員との会談を申し入れていたところ、セットした旨の連絡が入っていた。日本と米国の議会のちがいについては、前から少し調べていた。仕組みの違いがあるにしても、両国の市議会議員の数が違いすぎるのだ。人口が約1万人のオンタリオ市の市議会議員の定数は6名。任期が4年で、2年毎に半数の3名の改選がある。今回の会談はFugate女史とVerini市議、それに市長のCammack市長、当方から古川安男氏(元府議)と上谷元忠氏が出席し、Fugate女史の自宅で行われた。持参した大阪府の都市の議員定数や報酬の一覧表を説明したところ、報酬もさることながら、定数が多すぎるとの意見であった。米国、カリフォルニア州のロスアンジェルス(人口280万人)の市議会議員数が15名、サンフランシスコ市(人口が83万人)の定数が11名なのだから、日本の定数が押し並べて多すぎるとの指摘は充分理解できる。尚、報酬に関しては、オンタリオ市長が月に約2万円(=200ドル)、市議